

2024年3月4日

関東教区諸教会・伝道所・関係学校・団体の皆様へ

日本基督教団関東教区 総会議長 熊江秀一

災害対応支援委員会 統括 飯塚拓也

2024年3月11日を迎えるにあたって

「あなたはわたしの嘆きを数えられたはずです。あなたの記録にそれが載っているではありませんか。あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください。」 (詩編56:9)

「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」

(コリントの信徒への手紙二1:4)

「東北教区 3.11 わたしたちの^{いの}祈り 2024」より

主のみ名を賛美いたします。

2024年3月11日(月)は、「東日本大震災」発生から13年を迎える日です。

13年前のこの日、わたしたちは根底からくつがえされるような出来事を経験しました。わたしたちはこのことを忘れることはできませんし、今もなお震災による苦しみや悲しみを携えて生きざるをえない方々がいらっしゃることを覚えたいと思います。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故は、神さまから託された世界を放射能によって汚しました。そして、原子力に頼る私たちの社会のあり方に、大きな問題があることを教えました。原発周辺の方々は避難を余儀なくされ、今もなお不安の中におかれています。

私たちは、今もなお痛みと悲しみ、大きな不安の中にある方々を覚えつつ、3月11日を迎えたいと思います。私たちの内で、3月11日の出来事を風化させることのないよう、むしろ思いを新たに迎える日としましょう。

3月11日を迎えるにあたって関東教区として礼拝等はいりませんが、来る3月10日の主日礼拝やそれぞれの場所において、被災された方々と被災地を覚え祈ってくださるようお願いいたします。そのために、東北教区で作成された祈り文を同封いたします。ご覧くださって、祈りを共にしていただければと思います(この祈り文は、「関東教区ホームページ」でも紹介しています)。なお、奥羽教区と東北教区ではそれぞれ「3・11」を覚えての礼拝が計画されていますことともご案内いたします(教団新報にて紹介されています)。

2024年1月1日には、能登半島で大きな地震が発生しました。津波の被害も起き、多くの尊い命が失われ、今もなお行方のわからない方々もいらっしゃいます。地震発生から2か月が経過しましたが、多くの方々の懸命な努力によって、ようやく仮設住宅への入居が始まったと聞いています。

2月14日(水)に「灰の水曜日」を迎え、レントへと導かれました。

主の受難を思いつつ、主が人の苦難をその身におわれたことに、深く心を動かされたいと思います。そして、私たちも、苦難の中を歩む方々と共にありたいと願います。

神さまの導きとお守りが皆さまの上にありますようお祈りいたします。